

J R牟岐線・鳴門線における「意識調査」の「中間とりまとめ」について

1 概要

- (1) 目的 鉄道利用者の意識調査
- (2) 対象路線 J R牟岐線（阿南駅周辺以南）、J R鳴門線（池谷駅～鳴門駅）
- (3) 対象者

- ①沿線高校生 } 中高生
 沿線中学3年生 } ※高専生は高校生に含む

【調査対象校】

● J R牟岐線

高校：富岡東（全日制、羽ノ浦）、富岡西、阿南光、海部、阿南高専
 中学校：富岡東、羽ノ浦、那賀川、阿南、阿南第一、阿南第二、加茂谷、
 新野、福井、椿町、由岐、日和佐、牟岐、海陽、穴喰

● J R鳴門線

高校：鳴門、鳴門渦潮
 中学校：鳴門、鳴門第一、鳴門第二、瀬戸、大麻

②駅利用者

- J R牟岐線：阿南、阿波橘、桑野、新野、由岐、日和佐、牟岐、阿波海南
- J R鳴門線：鳴門、撫養

- (4) 調査期間 中高生：7月上旬に対象校に調査票を配布し、後日回収
 及び方法 駅利用者：7月上旬の平日に、対象駅にて調査票で聞き取り

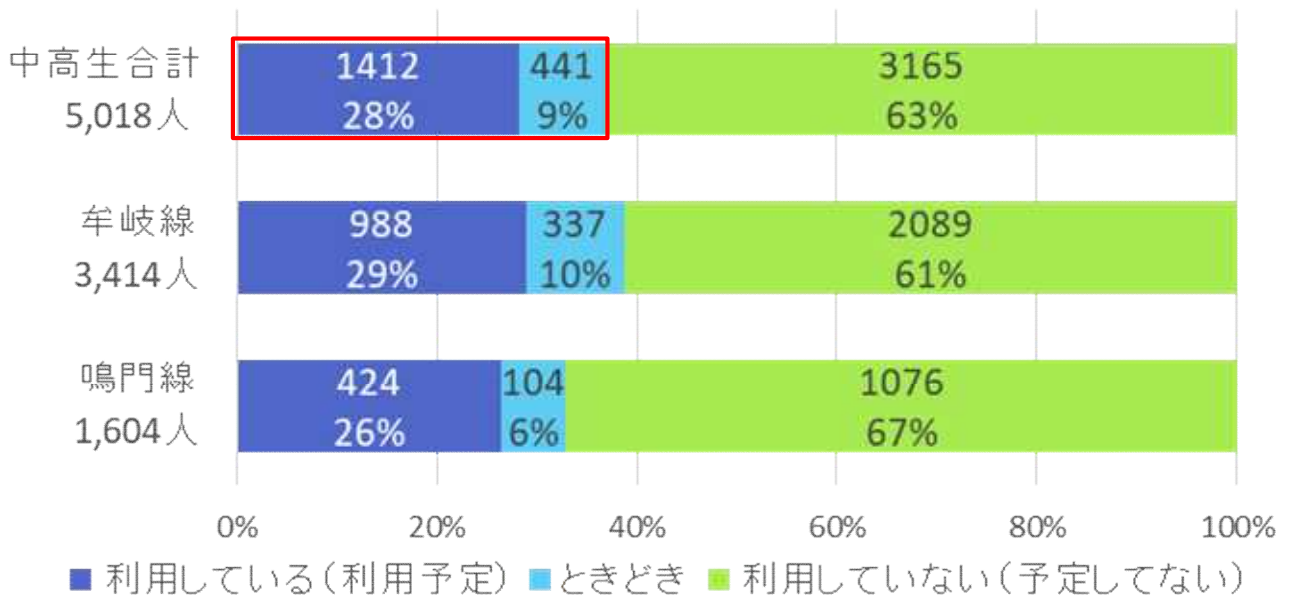
2 結果【速報値】

回答数 : 5,277人（中高生：5,018人、駅利用者：259人）
 うち分析対象者＝鉄道利用（予定）者：2,112人（中高生：1,853人、駅利用者：259人）

	総数 (人)	うち	
		中高生	駅利用者
回答数	5,277	5,018	259
分析対象者＝鉄道を利用（予定）	2,112 40.0%	1,853 36.9%	259 100.0%
「ほぼ毎日」利用（予定）	1,380 65.3%	1,259 67.9%	121 46.7%
廃線になれば「困る」	1,722 81.5%	1,486 80.2%	236 91.1%
「鉄道のまま」存続を希望	1,361 64.4%	1,182 63.8%	179 69.1%

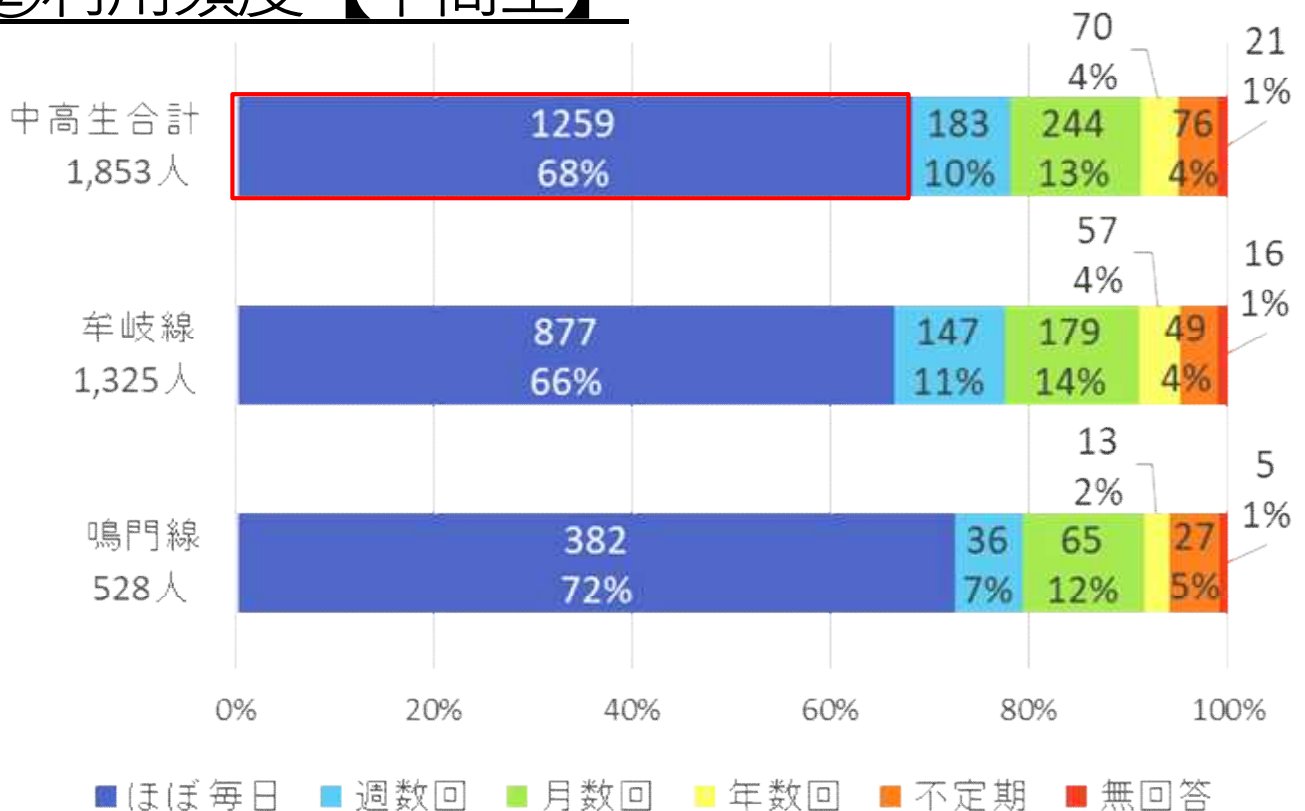
鉄道を利用（予定）
 している
 2,112人を対象に
 詳細分析

①通学に鉄道を利用（予定を含む）【中学生】



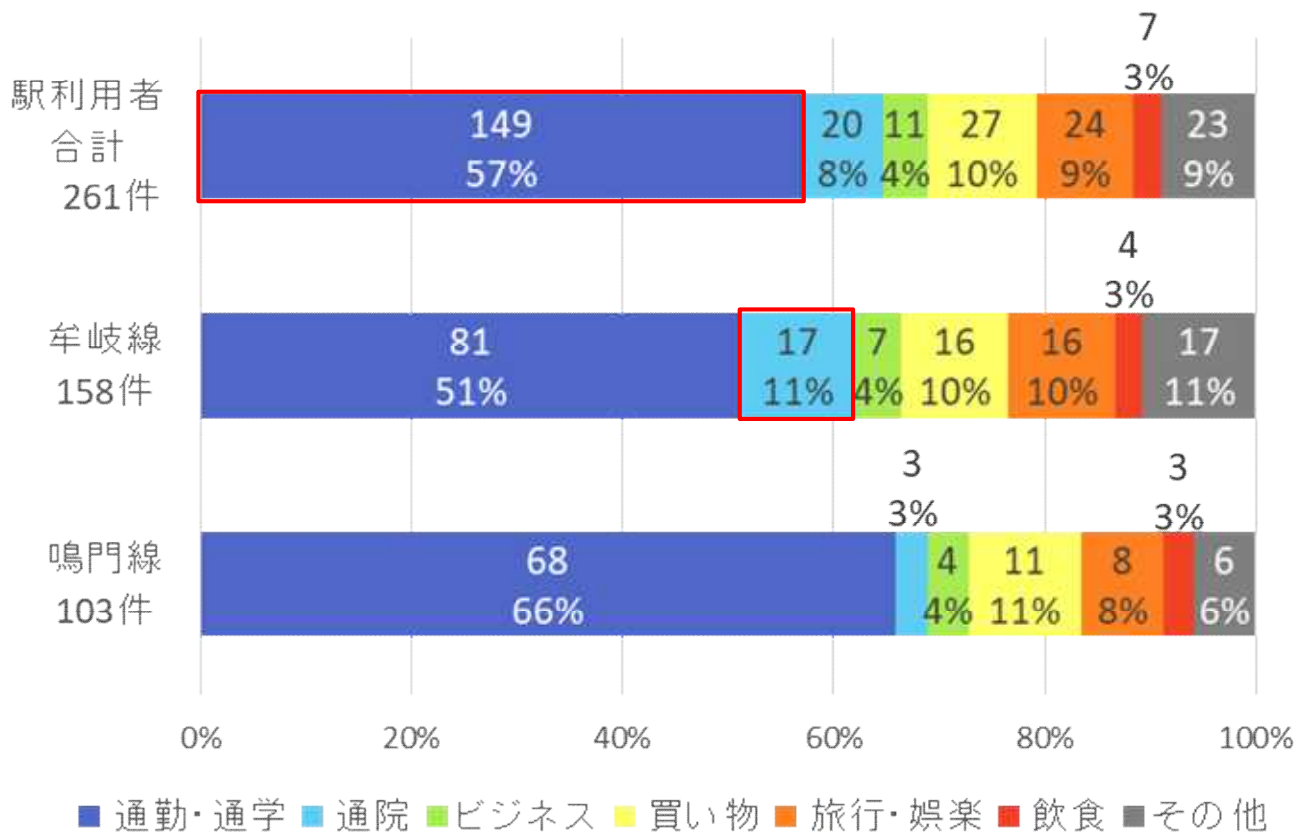
- 中高生の約4割が鉄道を利用(予定を含む)しており、重要な通学手段として定着している

②利用頻度【中学生】



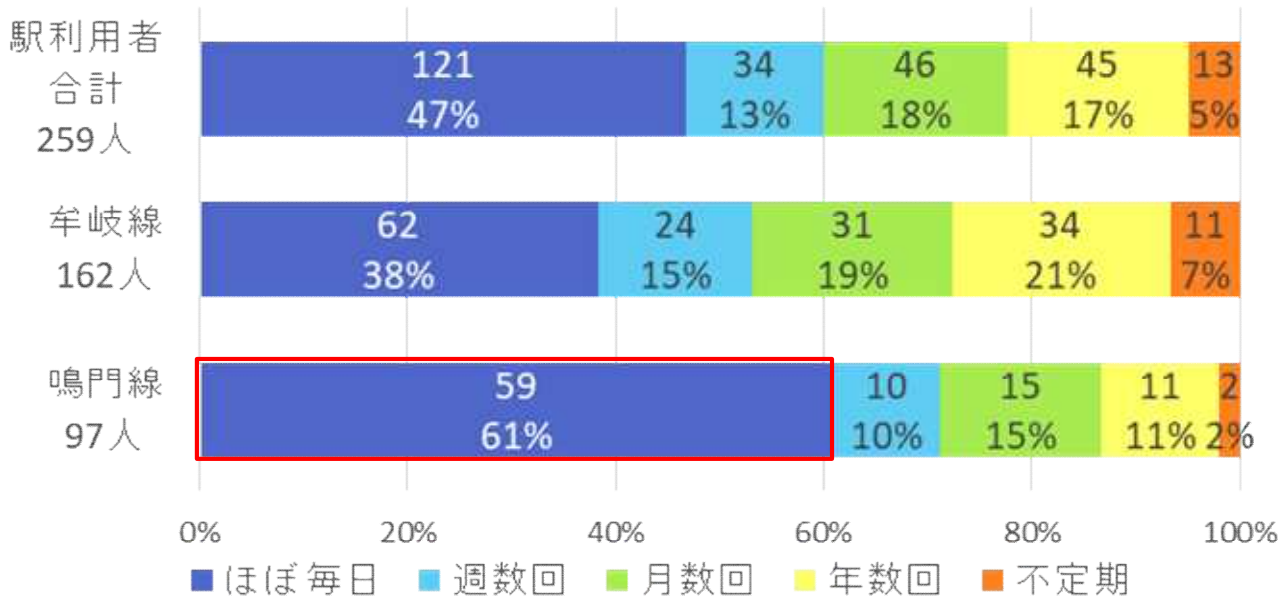
- 中高生の約7割がほぼ毎日利用(予定)

③鉄道の利用目的【駅利用者】（複数回答）



- 「通勤・通学」での利用割合が最も高く、特に鳴門線で高い
- 牟岐線では、鳴門線に比べ「通院」の割合が高い

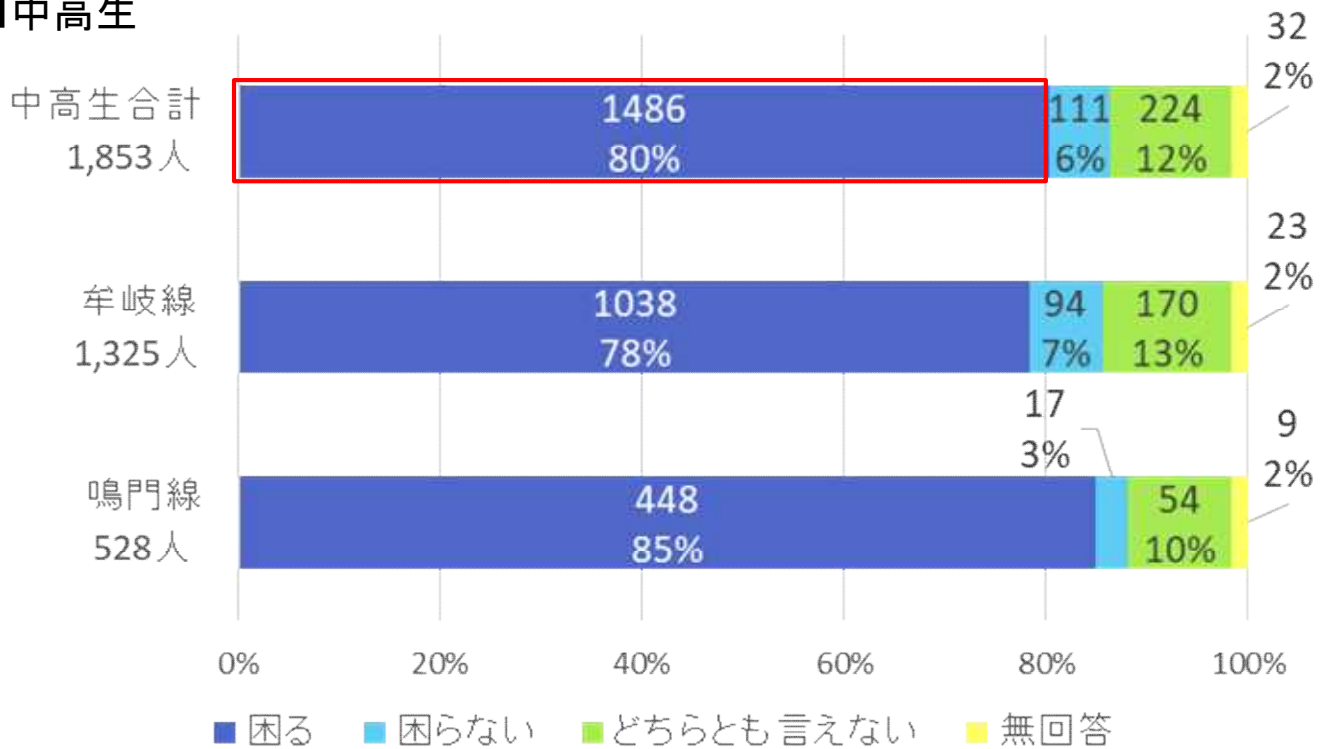
④利用頻度【駅利用者】



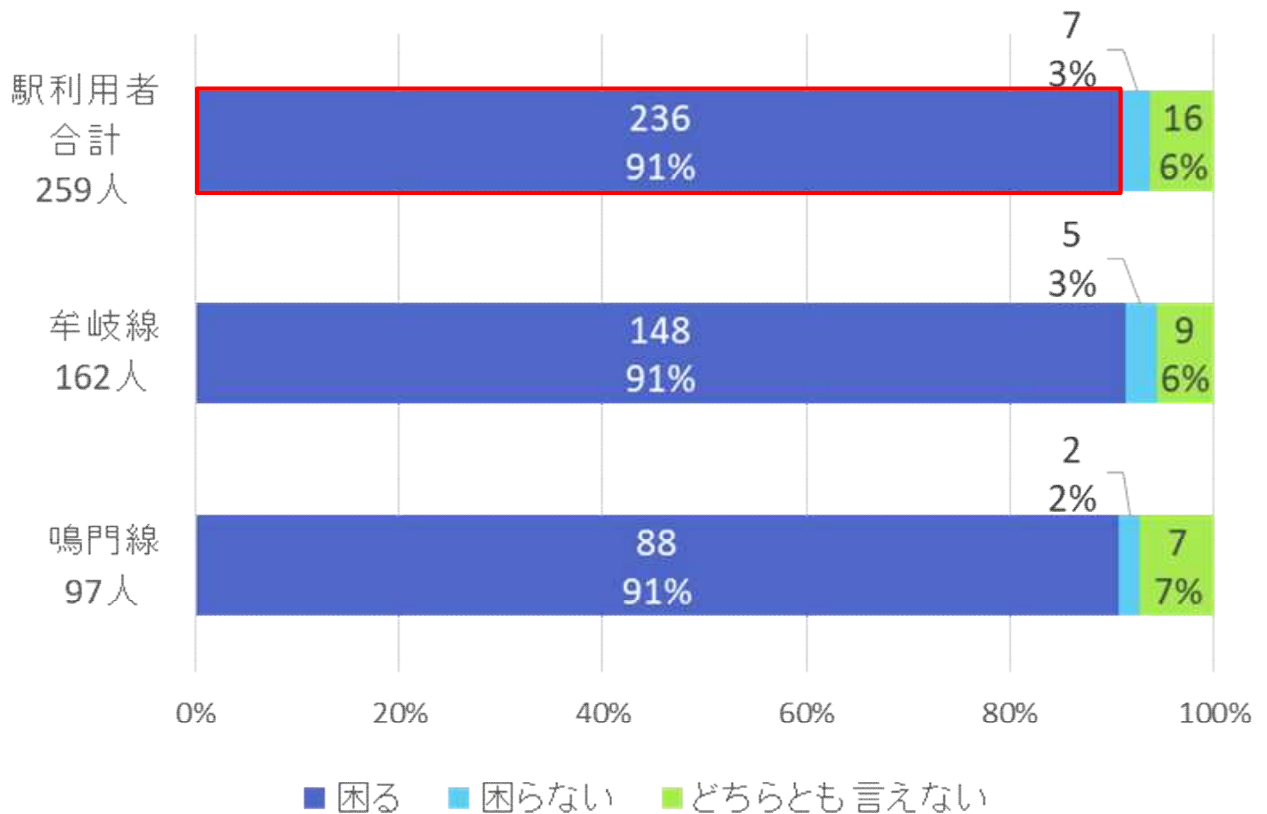
- 鳴門線では「ほぼ毎日」の割合が高い
- 牟岐線では「週、月、年に数回」に散らばっている
- 利用目的の結果と整合

⑤ J Rが廃線になると困るか

■ 中高生



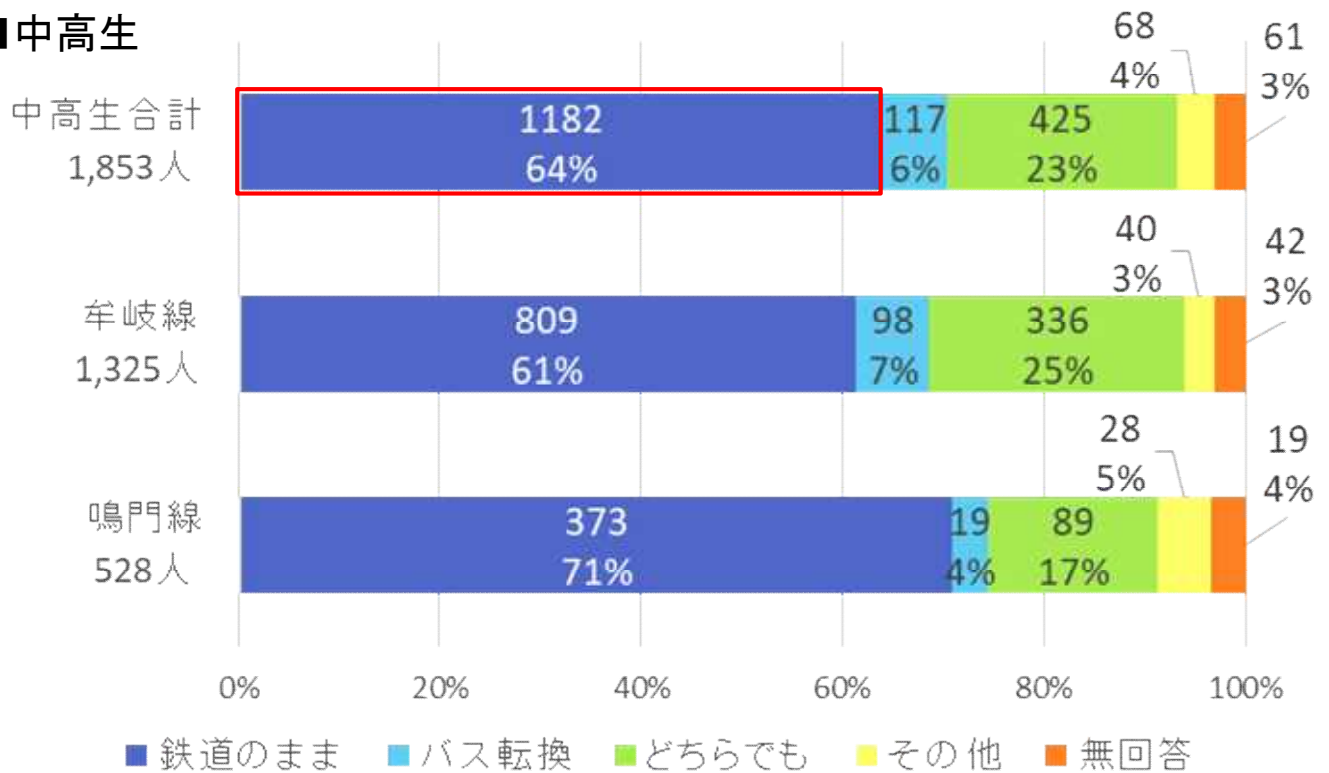
■ 駅利用者



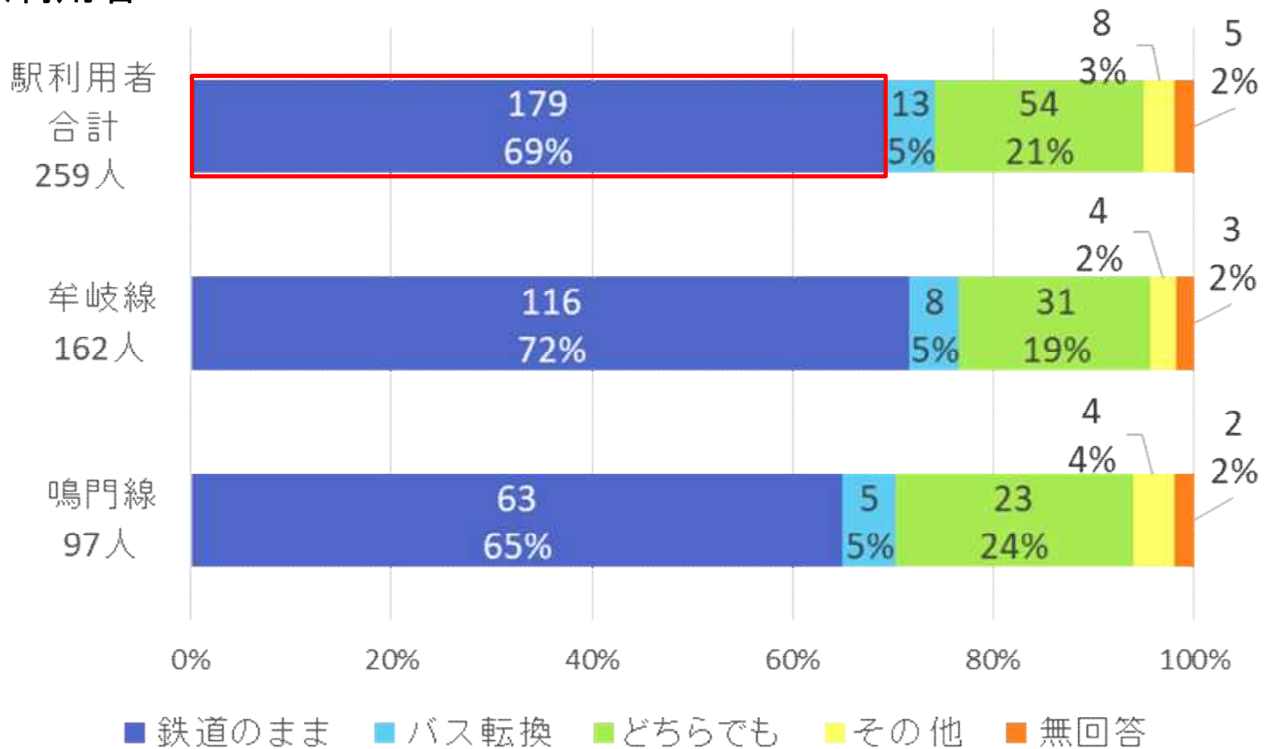
- 中高生の8割、駅利用者の9割超が「困る」

⑥今後どのような形で移動手段を確保すべきか

■ 中高生



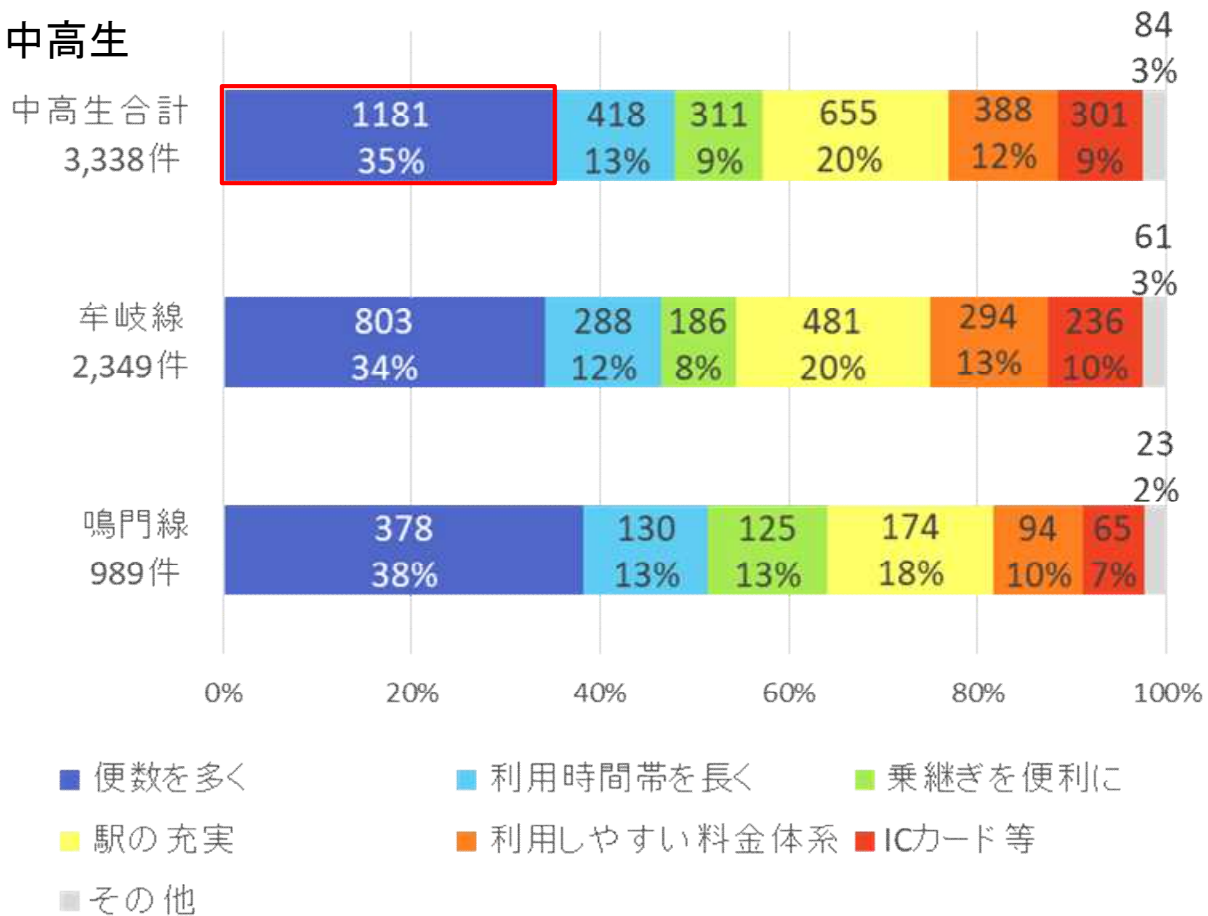
■ 駅利用者



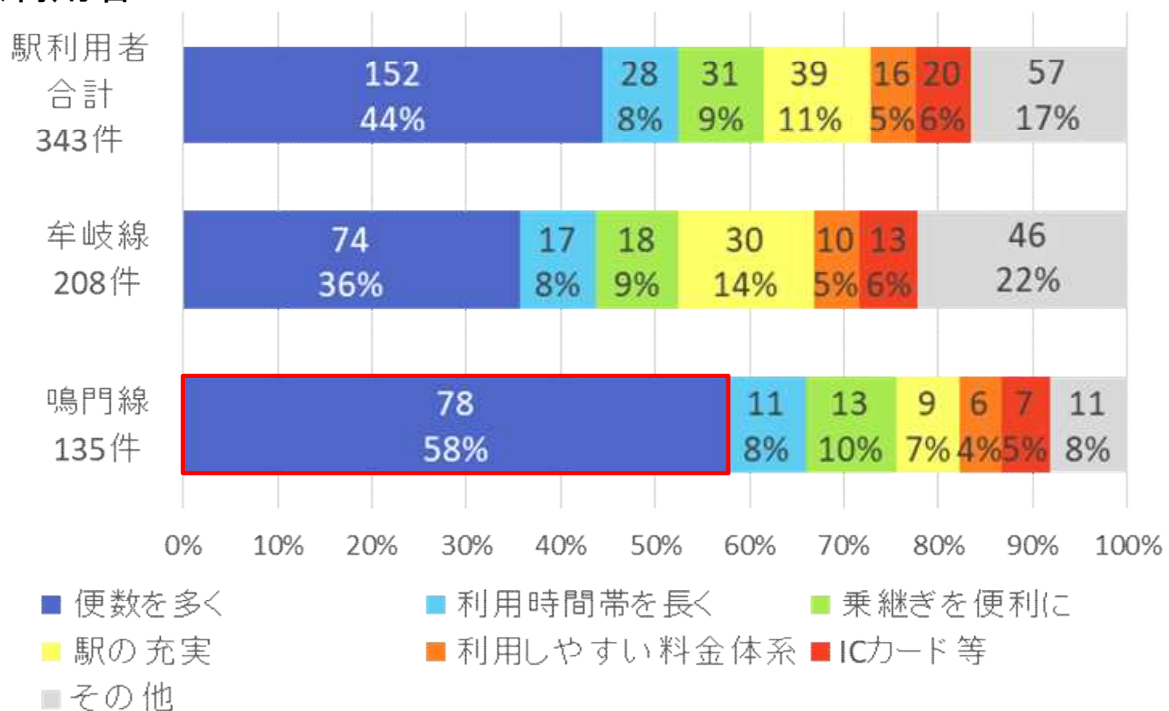
- 「鉄道のまま」を望む人が6割超で最多
- 次に「鉄道とバスどちらでも」という回答が2割超
- 鳴門線の中学生で「鉄道のまま」を望む声が高い傾向

⑦ ＪＲ利用者を増やすための方策（複数回答）

■ 中高生



■ 駅利用者



- 「便数を多く」を望む声が多く、鳴門線駅利用者で特に多い
- 次いで駅の位置など「駅の充実」が多い